

雪を活用した観光誘客支援事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	観光文化スポーツ部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立						
	施策	施策2 観光資源の高付加価値化と戦略的誘客の強化						
	目的	県内にある雪や滝などの豊富な観光資源の高付加価値化に取り組むとともに、ターゲットを明確化した戦略的誘客を展開し、旅行商品の販売を拡大する。						
	目標指標(R2)	観光消費額	2,500億円					
	策定時の実績	2,015億円(H27年)	現状	2,168億円(H29年)	主要事業	観光資源の高付加価値化		
事業名	雪を活用した観光誘客支援事業			担当課・担当	観光立県推進課 観光振興担当			
事業開始年度	平成27年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	観光交流による経済効果を高めるため、雪を活用した観光誘客に取り組み、年間を通じた観光交流の拡大を図る。県内雪祭りのオープニングを飾るイベントを開催し、インバウンドの観光誘客も含め、官民あげた取組みとして実施する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた雪フェスティバル」の開催 ・県内各地の雪祭り等への支援 ・国際色豊かな「やまがた雪フェスティバル」の開催 ・東北の冬の観光素材の磨きあげ、情報発信 ・蔵王の「プロジェクションマッピング」の開催 							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：事業実施にあたり高度な専門的知識や技術等が要求されるため。							
予算額・決算額 (単位：千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	雪を活用した観光誘客支援事業	25,000	23,500					
	雪を活用した観光誘客市町村支援事業	10,505	7,255					
	雪を活用した外国人観光誘客事業	3,000	3,000					
	冬の東北と着地コンテンツ整備事業	20,000	12,000					
	雪を活用した魅力創造事業	4,250	4,250					
	計	62,755	50,005	0	0	0		
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金	34,300	27,150					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	28,455	22,855					
	計	62,755	50,005	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	「やまがた雪フェスティバル」の開催	活動実績	回	1	1			
		当初見込み	回	1	1	1	1	1
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	冬の観光者数(12-2月)	成果実績	万人	917	調査中			
		目標値	万人	768	800	809	826	
		達成度	%	119				
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

県全体の観光者数について、冬季は観光客が落ち込む時期となっており、冬季における観光誘客の底上げは、本県における重要な課題である。そこで、“山形の冬の魅力”“雪の楽しさ”を発信して、マイナスイメージが持たれる「雪」を貴重な“地域資源”として活かし、経済活性化を図る。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・「やまがた雪フェスティバル」の開催や県内各地の雪祭りへの支援は、山形の冬の魅力を発信するとともに、特に「やまがた雪フェスティバル」については、第4回を迎え来場者は年々増加し、第4回の来場者は前年比12.6%の増加となり、観光客が落ち込む冬季の観光誘客の底上げに寄与する事業となっている。 ・東北6県及び東北観光推進機構が連携し、特にインバウンドに訴求力の高い冬の観光コンテンツの磨き上げや、メディア等の招請を含めた広報周知を行い、旅行商品の造成等に繋がった。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・業務委託業者については、公募型プロポーザル方式により企画提案を募り、有識者を交えた審査会を経て業者を選定した。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・「やまがた雪フェスティバル」等イベントについては、民間企業からの協賛金や出店により、官民協働で実施している。
今改善の点課題	・県内全域で冬季の観光誘客の底上げに取り組むために、各市町村に対し雪を活用した観光誘客の意識を高めるほか、県外・国外に対して積極的に雪祭りのPRを行い、更なる誘客を図る。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない